

令和6年4月

中庭のモクレンがいち早く満開となり、それを追うように花壇のチューリップやノースポール、ビオラ、忘れな草が咲き誇っています。東門の桜の開花は例年より遅く3月29日でした。その桜の花びらが舞う中、入学式が行われました。

本年度も、私が日頃感じていること、また皆さんに考えてほしいことを「校長室だより～宇部中央の風～」としてお届けします。保護者の方にも読んでいただければ幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

1学期の始業式、入学式では、皆さんに高校時代に身に付けてほしいことを三つお願いしました。「リスペクト・アザース」「変化を恐れるな」「知性を磨け」です。

○ リスペクト・アザース

昨年度の始まりに当たり、全校生徒にお話ししたのは、「リスペクト・アザース」でした。これは、平和で民主的な社会の形成者として、とても大切なマインド（考え方）だと思っていますからです。人類の知恵だと思っています。自分のために、他の人のために、平和で民主的な社会のために、このマインドは持ち続けてほしいと思います。学校にはいろんな人がいます。社会にはいろんな人がいます。人はみな自由なので、意見の衝突もあると思います。でも全員仲間です。誰一人、尊重されない人はいません。リスペクト・アザースは皆さんの中に浸透していると感じていますが、新年度にあたり改めてお願いします。

○ 変化（チェンジ）を恐れるな

皆さんが高校時代にすることは、変化を恐れないマインドをもつことです。取り返しのつかないような大失敗ではなく、後からリカバリーできるような失敗であれば、恐れることはありません。「チャンスだと思ったら果敢にチャレンジできる自分」になる。「成功するかどうかわからないけれど、こんなことをやってみたいな」と思うことにチャレンジする。そんな人になってほしいです。

皆さんが生きる時代は、いったん就職すれば定年退職までその会社で働き続けることが当たり前前の社会ではなく、キャリアチェンジが当たり前前の社会になっているかもしれません。セカンドキャリア、サードキャリアが普通となり、仕事を変えるなど人生の節目は何度もやってくる社会かもしれません。そのとき、落ち込んだり、自信を無くしたりするのではなく、へこたれずに次に向かう人、チェンジを楽しめる人になってほしい。そのトレーニングを高校時代にしてほしいのです。

「完璧は頻繁な変化から生まれる」と言ったのはイギリスの政治家チャーチルです。変化を恐れずに、自らを作り出し続けるのだというマインドをもってほしいと思います。

○ 知性を磨け

もう一つ皆さんが高校時代にすることは、知性を磨くということです。

これから先、皆さんがどこに行っても、何をしても、社会が変わっても、政権が変わっても、戦争が起こっても、奪われないものは何でしょうか。それは知性です。

歴史上、自分の国をもたず、他国で生活する中で土地も持てず、抑圧を受けて財産を取り上げられることもあった民族がいます。ユダヤ人です。彼らが、何があっても決して奪われないものとして大事にしていたのが、他ならぬ知性です。

知性を磨く、つまり学力を付けるということはとても価値があることなのです。学んだことは一生ついて回ります。リターンが大きいのです。以前、他人任せにするのではなく、自分でちゃんと考えることが大事だとお話ししました。そのために必要な学力を付けていきましょう。これは進路先に関係なく、誰にとっても必要なことです。

今の成績が1番だろうと100番だろうと、問題はこれからどうするかです。「4月を制する者はその年度を制す」と言います。授業はもちろん大事ですが、「成績は授業以外での学習内容に比例する」という心意気で発奮して勉強してほしいです。なぜなら習ったことが定着するには復習が必要だからです。6月までが勝負と思って、最初はきついとは思いますが、ルーティンが確立すれば、楽になるし、確実に成果も出てきます。そうするとモチベーションも上がります。変わることを恐れずに。いや、今が変わる時だと思って。

<本校のグラデュエーション・ポリシー> (卒業までにめざす生徒像)

- グローバルな視点を持ち、自他を尊重し仲間と協力しながら、地域・社会の活性化に貢献することができる生徒
- 自ら課題を見つけ、その解決に進んでチャレンジし、未来を切り開いていくことができる生徒
- 様々な経験から学び、簡単にはへこたれず、人間的に成長し続ける態度をもった生徒

○ 校庭紹介 (4月)



中庭のハクモクレンがいち早く春の訪れを告げてくれました。



世代を問わずに人気のチューリップ。寒い冬を耐えて咲きました。



生徒昇降口の植栽を植え替えてもらい、きれいになりました。



東門と桜。入学式には記念写真を撮られていた方が多数おられました。